

第34回日本緑内障学会

モーニングセミナー1

日時▶2023年9月9日(土) 8:00~8:50

場所▶第1+第2会場(虎ノ門ヒルズフォーラム 5F メインホール)

オンデマンド配信期間▶10月16日(月)~12月20日(水)

知らないと損する、
情報満載の1時間。
コ・メディカルの皆さん
大歓迎!

もう“OCT緑内障診断”に悩まない!

「RS-3000シリーズ」のトリセツ



～読影の基本から知らなかった便利機能までを徹底解説～

座長のことば

ニデック社のOCT、RS-3000は日本で初めて9mm x 9mmの広範囲の網膜神経節細胞複合体解析を実現し、網膜内層の構造変化を視神経乳頭から連続した画像として描出することに成功しました。このことは、視神経乳頭を発端とする神経線維層の菲薄化を特徴とする緑内障性視神経症の早期診断力向上に大きく寄与しました。

さらに、長眼軸長正常眼データベースも世界に先駆けて搭載し、わが国に多い近視緑内障の診断にもその威力を発揮しています。

しかしながら、このRS-3000のポテンシャル、皆さんは十分に引き出せているでしょうか。実は意外と知られていない便利機能が満載なのです。

たとえば、ファインモード撮像機能。白内障の画質とセグメンテーションの精度が飛躍的に向上します。ほかにも、トレーシング撮像機能。固視不良の患者でも常に同一部位を解析できます。

さらにマニアックなフォローアップモードのセクター別進行解析やタイムラプス機能など、これらを駆使すると緑内障診療をさらにレベルアップできること請け合いです。

詳細はRS-3000を使いこなしている二人のマイスターが徹底解説いたします。

現場で本機を操るコ・メディカルの皆さん大歓迎です。

座長



Shiro Mizoue

溝上 志朗先生

愛媛大学大学院医学系研究科
眼科学講座 准教授

RS-3000による 緑内障診断の基礎

～解析結果の読み方、コツと落とし穴～

演者



Tomoko Naito

内藤 知子先生

グレース眼科クリニック 院長

RS-3000を活用した 緑内障の鑑別診断と経過観察

～紛らわしい症例はこうして見分ける～

演者



Shunji Ohkubo

大久保 真司先生

おおくぼ眼科クリニック 院長

* 第34回日本緑内障学会への参加には、
参加登録が必要です。

参加登録
ページ▶



共催: 第34回日本緑内障学会 / 株式会社ニデック

23緑内障セミナー_T01J001